

公開情報

No.1

調査者	山川 諒太
情報ソースの刊行日	2020年4月16日
情報ソースの調査日	2020年4月3日～4日
タイトル	新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査
情報ソース	株式会社第一生命経済研究所
文献 (URL 含む)	http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_01.pdf
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の20～69歳の男女1000名にインターネット調査でアンケートを実施した。 ・「感染すること」は87%、「十分な治療を受けられないかもしれないこと」は81%、「検査をしてもらえないこと」は75%が不安。 ・自分が感染したら「誰かにうつすかもしれない」と思う人は85%、「重症化するかもしれない」と思う人は56%。 ・6割以上が3密を回避。9割近くが不要不急の外出を自粛。 ・働く人の約5割が自分の仕事や働き方に影響を受けている。 ・約3割が「仕事のストレスが増えた」、約2割が「仕事が捗らなかった」と回答。 ・「自分の仕事や勤め先の将来像が描けない」が38%。自分の仕事の将来不安を感じている人が目立っている。
注目ポイント 考察	<p>自分が感染するリスクや誰かに移すリスク、十分な治療を受けられないかもしれない不安を感じ、3密を回避し不要不急の外出を自粛している。新型コロナウイルスの感染拡大予防によって受けた影響としては、最多が「会議や出張を見送った」、次点が「社員教育のための集団型のセミナーや研修が中止になった」という結果だった。</p> <p>会議、出張、セミナーなどは今後、在宅でも可能になると考えられ、物理的な移動が少なくなる可能性や、それに伴う活動量低下、生活習慣病罹患者の増加などといったリスクも考えられた。在宅勤務になりストレスが増えた人も3割いて、同僚とのコミュニケーションが減ったことや仕事に集中できず捗らない人が多いことと関連していると考えられた。「会社の指示(拘束力)が強まった」、「労働時間の管理が厳しくなった」という回答割合も反対意見に対して多く、</p>

	<p>限られた時間でいかに心身を自己管理するかが重要な時代になることが予想された。効率よく健康管理ができる、例えばオンラインの予防的な健康管理システムがあれば有用と考えられた。</p>
--	--